[個別研究]

産褥期の精神症状のスクリーニングに関する研究
——未熟児病棟入院児の母親へのNKS・STの臨床的適用——

児童家庭福祉研究部　庄司順一
愛育相談所　川井　尚
嘱託研究員　野尻　恵（桜ケ丘記念病院）
恒次欽也（愛知教育大学）

筆者らは、産褥期の精神的問題をスクリーニングするための簡便な検査（ＮＫＳ・ＳＴ）の開発をすすめている。これは、妊娠期を対象とした精神症状のスクリーニング検査（ＰＫＳ・ＳＴ）と対をなすものである。

本報告では、138名の母親（褥婦）の回答を分析した。ＮＫＳ・ＳＴの因子分析を行うことにより、因子的妥当性を検討することが第１の目的であり、第２の目的は臨床的妥当性を検討することであった。そのために、未熟児病棟に入院しているハイリスク児の母親38名と一般の新生児の母親との比較を行った。

見出し語：産褥期、精神症状、スクリーニングテスト、ハイリスク児の母親、因子分析

Research in the Screening of the psychological symptoms
in the mothers of the newborn baby

Jun-ichi SHOJI　Hisashi KAWAI　Megumi NOJIRI　Kin-ya TSUNETSUGU

The authors have developed a screening test(NKS•ST) for the psychological symptoms in the mothers of thenewborn. The NKS•ST has similar purpose as the PKS•ST.

In this report we examined responses of the 138 mothers of the normal newborn, and factor analysis had done so as to inquire the factorial validity. As we had also inquired the clinical validity, we compare the responses of the mothers of high-risk newborns with that of normal newborns.

Key Words: puerperal periods, psychological symptoms, screening test, mothers of the high-risk newborn, factor analysis

Ⅰ 研究目的

筆者らは，産褥期にある褥婦の精神的な問題をスクリーニングするためのテスト(ＮＫＳ・ＳＴ)の開発をすすめている。このＮＫＳ・ＳＴは，川井らが昨年度報告した妊娠期用のスクリーニングテスト（ＰＫＳ・ＳＴ）[1]と対をなすものである。ＰＫＳ・ＳＴは妊娠期の妊婦の精神的問題をスクリーニングするために作成したものであるが，ＮＫＳ・ＳＴは，マタニティ・ブルーズなど産褥期に生じやすい精神的な問題をスクリーニングすることを意図としている。

本研究の目的は，第１に，因子分析によりＮＫＳ・ＳＴの因子的妥当性を検討することである。第２の目的は，本テストの臨床的な妥当性を検討することであり，このために未熟児病棟に入院しているハイリスク児（高ビリルビン血症を含む）の母親（Ｈ群）と，とくに問題のない（ローリスク）新生児の母親（Ｌ群）の回答を比較検討する。これは何らかの問題を抱えているハイリスク児の母親は心理的に不安定になっていることが予想され，その不安定さが一般集団（ローリスク児の母親）と比較してＮＫＳ・ＳＴの反応として現れるならば，本検査に一定の臨床的な妥当性があるものと考えられるからである。

Ⅱ 方法

１．対象

ＮＫＳ・ＳＴを実施したのは総数256名で，そのうち全項目に回答が得られた138名を因子分析の対象とした。

次に，ハイリスク群（Ｈ群）は，都立母子保健院で出産して，低出生体重や何らかの病的症状があって未熟児病棟に入院している児の母親38名である。児の性別は，男児18名，女児20名であった。また，病的状態の内訳は，高ビリルビン血症児20名，仮死9名，低出生体重児6名，ＲＤＳ3名，ＳＦＤ3名，ＴＴＮ3名であった。児の平均入院日数は14.5日であった。この38名と，ローリスク児の母親（Ｌ群）の総数218名（男児108名，女児110名）とを比較する。さらに，ハイリスク群とローリスク群の人数の差が非常に大きいので，ローリスク群を，母親の年齢，子どもの性，出生順位が第１子であるという３条件について，ハイリスク児とペアマッチさせたところ30組60名がマッチした。そこでこの30組60名についても比較を行った。

２．方法

ＮＫＳ・ＳＴは４領域60項目の質問項目から成り立っている（表１）。すなわち，領域Ａ「今回の妊娠，出産，および初めて児と会ったときに感じたことなど」(13項目)，領域Ｂ「母親のもともとの性質」(16項目)，領域Ｃ「赤ちゃんを生んでからの心身の状態」(20項目)，領域Ｄ「夫婦関係や自分の親子関係など」(11項目)である。各質問項目に対して，あてはまるか，あてはまらないかで，「はい」「いいえ」のどちらかに○をつける２件法で回答するようになっている。ただし，領域Ａのみ質問項目に応じた回答から選択する３件法になっている。

対象となった母親には産科入院中に用紙を配布して回答を求めた。

Ⅲ 結果および考察

１．ＮＫＳ・ＳＴの因子分析

１）項目分析

項目分析は，全項目を単純に加算して，その総点をもとめ，この総点と各項目との相関係数を算出し，有意性検定を実施した。検定の結果が１％水準で有意でない項目は不適当なものとして検討対象から外した。これによりＮＫＳ・ＳＴ60項目中12項目が有意でなかった。次に，χ^2検定を実施したところ１項目が有意でなく，これを先の12項目と併せて，13項目が項目としては不適当と考えられるので分析から外し，残りの47項目を分析の対象とした。

２）因子分析

項目分析により絞られた47項目について，主因子法（バリマックス回転）による因子分析を実施した。それによると，11因子が抽出された（表２参照）。

11因子全体で約79％の寄与率であるが，寄与率の低下を考えると７因子（累積寄与率65．3％）で充分といえる。

さらに，各項目の各因子に対する因子負荷量を算出し，それを因子１から並び換えた結果を表３に示した。ただし，負荷量が0.45以下の項目は記載していない。

表３から各因子を次のように命名した。第１因子は「夫婦関係」，第２因子は「抑うつ感」，第３因子は「神経質」，第４因子は「孤立傾向」，第５因子は「不安感」，第６因子は「心身状態」，第７因子は「焦燥感」である。つまり，ＮＫＳ・ＳＴはこれら７つの因子に関わる事柄を評価しているといえる。これらの因子はいずれも産褥婦の心理的な問題を反映したもので

あり，本テストが一つの妥当性をもつ検査であり，今後の検討により標準的なスクリーニングテストとなり得ることを示したと考える。

今後は，他の心理検査との妥当性や，信頼性の検討を7因子に関わる項目を中心においてさらなる検討を加えていく必要がある。

2．ハイリスク群（H群）とローリスク群（L群）の比較

ハイリスク児群（H群）と，ローリスク児群（L群）の母親の回答の相違の有無を検討するために，各質問項目と群との間のχ^2検定を行った。その中で統計的に有意なもの（今回は$P<0.10$とした）を表にまとめて示してある（表4－1および表4－2を参照のこと）。

まず，領域間を比べると，領域D，BやAで有意な項目が少なく，それに対して領域C「赤ちゃんを生んでからの心身の状態」の項目が多いのがわかる。明らかに出産後の状態はL群とH群では異なっているといえる。

次に各領域ごとの特徴をみていきたい。

①領域A「今回の妊娠，出産，および初めて児と会ったときに感じたことなど」（13項目）

ここでは，出産と，赤ちゃんとの初対面で有意な相違が認められた。表4－1によると，出産ではH群が喜びが少なく，大変さや恐さを強く感じていることがわかる。それに対してL群は，大変さを感じたものが多いものの，大きな喜びを感じるものも30%いる。無事出産を終えたことへの率直な喜びが表出したものといえるであろう。赤ちゃんとの初対面では，H群ではうれしかったが一番多いだけでなく，不安を訴えるものが約8%もいることは注目される。L群では，ほっとするものの方が，うれしいとするものよりも多いのは，両群では初めて赤ちゃんに会うまでの時間の長さが異なっており，L群は出産からまもなくが多く，H群はリスクの程度に応じて出産から会うまでに相当の間待たされるためと思われる。

②領域B「母親のもともとの性質」（16項目）

もともとの母親の性質を問うたものであるが，H群に一人でなにかをするのが好きが多い結果が得られた。ただ，リスクの有無により相違が出るというのは不自然であることから，この項目がもともとの性質をたずねるものとしてはふさわしくないことを意味しているとともに，領域Cに入れるべきものなのかも知れない。今後，再検討すべき項目であるといえる。

③領域C「赤ちゃんを産んでからの心身の状態」（20項目）

表4－2にあげた項目は，いずれもnegativeな反応が有意にH群に多く現れたものである。これら一連の項目から，ハイリスク児を持った母親は自信がなく，やや無気力で，孤独感に陥りがちであることがわかる。そして，L群と比べると相当数いることがうかがわれる。こうした項目への回答の傾向からすると，ハイリスク児を持った母親は，ローリスク児の母親と比べて，マタニティ・ブルーズに陥りやすいものと推測される。なお，有意差は認められなかったものの他のC領域の項目をみてみると，そのほとんどの項目でH群の方がnegativeな反応を示す傾向が認められた。このことからH群の対象者数を増やすことにより他の項目でも有意な相違がでてくる可能性が大きいといえそうである。なお，この領域で各人がnegativeな回答した反応数をカウントして，それの両群の平均値を算出したところ，H群で4.7，L群で3．1であり，U検定で有意差が認められた（$P<0.05$）。この結果からC領域全体としてH群がnegativeに反応しがちであることが裏付けられる。

④領域D「夫婦関係や自分の親子関係など」（11項目）

表4－2に示したように退院後の育児をH群の母親が有意に多く不安を抱いていることが示された。このことから退院後のフォローの必要性が認められる。

以上の結果から，領域Cに顕著にH群とL群とに相違が現れたといえる。すなわち，ハイリスク児の母親は精神的に傷つきやすい状態にある場合が多く，何らかの心理臨床的な援助を必要とするケースが少なくないということができる。したがって，ハイリスクな児を出産した母親に対して本テストを施行するとともに，その結果によっては心理面接を実施する体制が望まれるといえる。なお今後，H群の例数を増やすとともに，心理面接等による追跡研究を実施して行きたい。

最後に，H群とL群の対象者をペアマッチングした30組，60名についてχ^2検定を行い，両群を比較した結果を述べる（表5）。

それによると，領域Aでは有意差は認められなかった。領域Bでは，B6「何事もほどほどにこなせる」，B9「一人でいる方が好き」で，領域Cでは，C2「気分の状態（快調・不調）」C3「夜中に目がさめる」C5「わけもなく寂しい」C10「自信がもてない」C11「わけもなく泣ける」C13「不安や恐怖感に襲われる」C14「穏やかな気持ち」C15「良く眠れる」C20「とても幸せ」，領域Dでは，D2「父親との関係」D7「退院してからの育児が心配」D8「困り果てたらどうするか」の各項目で，H群の方がL群よりもnegativeな反応が多い傾向が認められた。H群とL群全

体を比較した場合とおおよそ同じような結果が得られたといってよいであろう。いずれにしても，領域Cの項目に差が多くみられたことから母親の元々の性質，性格よりもハイリスク児が生まれたことによる反応性の，おそらくは一過性の反応としてnegativeな反応がH群に多く認められたといえるであろう。

この一連の結果・考察からＮＫＳ・ＳＴには一定の臨床的妥当性があるものと考える。

文　献

1）川井　尚・庄司順一・野尻　恵・恒次欽也：妊娠期の精神症状のスクリーニングに関する研究（1）－ＰＫＳ・ＳＴの因子分析による検討－．日本総合愛育研究所紀要，第　28集，161-170，1992.

表1　NKS・ST

NKS・ST

あなたのお名前　　（年令　　才）
お子さんの生年月日　　年　　月　　日
生後　　日目　　1.男　2.女　　第（　　）子
記入年月日　　年　　月　　日
主治医

このアンケートは，健やかな赤ちゃんを育てるための保健指導の資料として参考にさせていただくものです。
以下の質問項目について，当てはまる方の番号に○印をおつけ下さい。もし迷ったら，どちらか近い方に○印をつけて下さい。
ご自分に当てはまらない質問項目があれば，その項目番号に×印をつけて，とばして下さい。

A　妊娠と出産についておうかがいします

1.今回の妊娠について，どのように思われましたか。	1.とても望んでいた	2.予想外だった	3.まだほしくなかった
2.妊娠に気づいたとき，どのように感じられましたか。	1.とても嬉しかった	2.うれしいけれど不安だった	3.とても不安だった
3.おなかが大きくなってきたとき，どのように感じましたか。	1.母親としての自覚がでてきた	2.赤ちゃんの実感がした	3.恥ずかしい，みっともない
4.出産についてどのように感じていますか。	1.大きな喜びである	2.大変だと思った	3.こわい感じがした
5.おなかの赤ちゃんが動いたとき，どのような感じがしましたか。	1.とても嬉しかった	2.生きている実感がした	3.変な感じがした
6.おなかの赤ちゃんに対していかがでしたか。	1.よく話しかけたりした	2.愛情を感じた	3.実感がわかなかった
7.赤ちゃんを産んでご自分の気持ちに変化がありますか。	1.気持ちが穏やかになった	2.あまり変わらない	3.イライラしたり不安定になった
8.初めて赤ちゃんと会ったときいかがでしたか。	1.とても嬉しかった	2.元気でほっとした	3.これからどうしようと不安だった
9.初めて赤ちゃんをだっこしたときどのように感じましたか。	1.とても嬉しかった	2.かわいいと思った	3.こわい感じがした
10.赤ちゃんにおっぱい（人工乳でも）をあげた時いかがでしたか。	1.とても感激した	2.母親の実感がした	3.うまく吸ってくれるか心配した
11.赤ちゃんといっしょにいるとき気分はいかがですか。	1.とても幸せ	2.気持ちが穏やかになる	3.心も体も休まらない
12.おっぱい（人工乳でも）を上手に飲んでくれますか。	1.はい	2.普通だと思う	3.うまく飲んでくれない
13.赤ちゃんがよく泣くのでどうしたらいいか困っていますか。	1.いいえ	2.普通だと思う	3.泣きやまず困っている

B　あなたの元々の性質について，おたずねします

1.気分は比較的安定している方である。	1.はい	2.いいえ
2.人に頼ったり，甘えたりすることがうまくできる方である。	1.はい	2.いいえ
3.ひどくゆううつな気分になることがよくある。	1.いいえ	2.はい
4.とても几帳面で何事もきちんとしないと気がすまない。	1.いいえ	2.はい
5.おっくうで何もやる気が起こらないことがよくある。	1.いいえ	2.はい
6.何事もほどほどにこなせる方である。	1.はい	2.いいえ
7.気が滅入ることがよくある。	1.いいえ	2.はい
8.とても心配性で，あれこれ気に病むことが多い。	1.いいえ	2.はい
9.人とつき合うよりも，一人で何かしている方が好きである。	1.いいえ	2.はい
10.完璧に計画を立て，その通りにできないと気がすまない。	1.いいえ	2.はい
11.何とも言えず淋しい気持ちにおそわれることがよくある。	1.いいえ	2.はい
12.人づき合いが好きな方である。	1.はい	2.いいえ
13.いつも悪い方悪い方へと考えやすい。	1.いいえ	2.はい
14.何事にも敏感に感じ過ぎてしまう方である。	1.いいえ	2.はい
15.家にとじこもりがちである。	1.いいえ	2.はい
16.楽天的であまりくよくよと考えない方である。	1.はい	2.いいえ

裏面におすすみ下さい

C　赤ちゃんを産んでからの様子についておたずねします

1.からだの調子はいかがですか。	1.快調	2.不調	□
2.気分の状態はいかがですか。	1.快調	2.不調	□
3.夜中に目がさめてしまい，困りますか。	1.いいえ	2.はい	□
4.胸がドキドキして困ることがよくありますか。	1.いいえ	2.はい	□
5.わけもなく淋しいという感じがよくありますか。	1.いいえ	2.はい	□
6.イライラすることが多いようですか。	1.いいえ	2.はい	□
7.ひどく疲れやすいですか。	1.いいえ	2.はい	□
8.とてもおっくうでやる気が起こらないことがよくありますか。	1.いいえ	2.はい	□
9.じっくり取り組めない，集中力がないと感じますか。	1.いいえ	2.はい	□
10.何事にも自信が持てないといったことがよくありますか。	1.いいえ	2.はい	□
11.わけもなく泣けてきてしまうといったことがよくありますか。	1.いいえ	2.はい	□
12.いてもたってもいられない程おちつかないことがよくありますか。	1.いいえ	2.はい	□
13.不安や恐怖感におそわれることがよくありますか。	1.いいえ	2.はい	□
14.とても穏やかな気持ちでいることの方が多いですか。	1.はい	2.いいえ	□
15.よく眠れますか。	1.はい	2.いいえ	□
16.寝つきはよい方ですか。	1.はい	2.いいえ	□
17.目覚めたときさわやかですか。	1.はい	2.いいえ	□
18.食欲がありますか。	1.はい	2.いいえ	□
19.おいしく食べられますか。	1.はい	2.いいえ	□
20.とても幸わせな気分ですごしていますか。	1.はい	2.いいえ	□

□□□

D　以下の補足質問にお答え下さい

1.ご自分のお母さんに何でも話せたり相談できますか。	1.はい	2.いいえ	□
2.ご自分のお父さんとの関係はいかがですか。	1.仲がいい方	2.なんとなくしっくりいかない	□
3.ご主人はあなたの話をよく聞いてくれますか。	1.はい	2.いいえ	□
4.ご主人との関係はいかがですか。	1.仲がいい方	2.なんとなくしっくりいかない	□
5.ご主人はよく気遣い，手助けをしてくれますか。	1.はい	2.いいえ	□
6.ご主人は家事，育児に参加してくれそうですか。	1.はい	2.いいえ	□
7.退院してからの育児についてひどく心配ですか。	1.いいえ	2.はい	□
8.困りはてたときどうしますか。	1.だれかに助けを求める	2.一人で何とかしようとする	□
9.最近，身内に重い病気の人がいますか。	1.いいえ	2.はい	□
10.最近，身内で亡くなった人がいますか。	1.いいえ	2.はい	□
11.何か相談したいことがありますか。	1.いいえ	2.相談したい	□

□□□

(具体的にお書き下さい)

□

都立母子保健院・産婦人科

by Kawai & Shoji

表2　因子分析による固有値と寄与率

	固有値	寄与率	累積寄与率
因子1	8.199	26.1	26.1
因子2	2.707	8.6	34.7
因子3	2.320	7.4	42.1
因子4	2.143	6.8	48.9
因子5	1.951	6.2	55.1
因子6	1.620	5.2	60.2
因子7	1.593	5.1	65.3
因子8	1.256	4.0	69.3
因子9	1.070	3.4	72.7
因子10	1.028	3.3	76.0
因子11	1.010	3.2	79.2

表3　各項目の各因子に対する負荷量

因子負荷の高い項目（寄与率）	因子負荷量
因子1　（26.1）	
D3：夫は話を聞いてくれるか	0.748
D4：夫との関係	0.728
C20：幸せな気分ですごす	0.697
因子2　（8.6）	
B11：寂しい気持ちに襲われる	0.738
B7：気が滅入る	0.726
B1：気分は安定している	0.591
B3：ゆううつな気分になる	0.530
因子3　（7.4）	
B16：楽天的	0.676
B14：敏感に感じる	0.666
B8：心配症	0.655
B13：悪い方へ考え易い	0.579
因子4　（6.8）	
B9：一人で何かするのが好き	0.875
B12：人づきあいが好き	0.773
B15：家に閉じ込もりがち	0.579
因子5　（6.2）	
C13：不安や恐怖感に襲われる	0.871
C12：落ちつかない	0.759
因子6　（5.2）	
C1：体の調子	0.666
C7：ひどく疲れ易い	0.606
C9：じっくり取り組めない	0.585
C8：億劫でやる気が起こらない	0.517
因子7　（5.1）	
C6：イライラする	0.616
A7：産後の気持ちの変化	0.595
C11：わけもなく泣ける	0.522

表4－1　H群とL群の回答の比較（領域AとB）
（数値は%）

A4　出産について（＊＊）

	H群	L群
大きなよろこび	10.5	30.7
たいへん	76.3	62.4
こわい	10.5	6.4
記入なし	0.8	0.5

A8　初めて赤ちゃんに会ったとき（＊）

うれしかった	52.6	44.0
ほっとした	34.2	54.6
不安	7.9	0.5
記入なし	5.3	0.9

B9　ひとりで何かしている方が好き（＊＊）

いいえ	68.4	83.0
はい	31.6	15.1
記入なし	0.0	1.8

＊＊＊$p<0.01$　＊＊$p<0.05$　＊$p<0.10$

表４－２　Ｈ群とＬ群の回答の比較（領域ＣとＤ）

Ｃ２　気分の状態は（＊＊）

快調	71.1	86.7
不調	23.7	9.2
記入なし	5.3	4.1

Ｃ５　わけもなくさびしい（＊）

いいえ	81.6	91.3
はい	18.4	7.3
記入なし	0.0	1.4

Ｃ８　やる気がおこらない（＊）

いいえ	76.3	86.2
はい	18.4	12.8
記入なし	5.3	0.9

Ｃ10　自信がない（＊）

いいえ	73.9	91.3
はい	18.4	7.8
記入なし	2.6	0.9

Ｃ13　不安におそわれる（＊＊）

いいえ	78.4	91.7
はい	21.6	7.3
記入なし	0.0	0.9

Ｃ18　食欲がある（＊）

はい	78.9	90.8
いいえ	21.1	8.7
記入なし	0.0	0.5

Ｃ20 とても幸せな気分（＊＊＊）

はい	68.4	89.4
いいえ	26.3	5.1
記入なし	5.3	5.5

Ｄ７　退院後の育児が心配（＊＊＊）

いいえ	52.8	85.0
はい	47.2	15.0
記入なし	0.0	0.0

表５　Ｈ群とＬ群間のχ^2検定

		はい	いいえ
Ｂ６	Ｈ群	93.3	6.7
＊	Ｌ群	76.7	23.3
Ｂ９	Ｈ群	33.3	66.7
＊＊	Ｌ群	7.1	92.9
Ｃ２	Ｈ群	75.9	24.1
＊＊	Ｌ群	96.4	3.6
Ｃ３	Ｈ群	60.0	40.0
＊＊	Ｌ群	86.7	13.3
Ｃ５	Ｈ群	83.3	16.7
＊	Ｌ群	96.7	3.3
Ｃ10	Ｈ群	82.8	17.2
＊	Ｌ群	96.7	3.3
Ｃ11	Ｈ群	83.3	16.7
＊	Ｌ群	96.7	3.3
Ｃ13	Ｈ群	75.9	24.1
＊＊	Ｌ群	96.7	3.3
Ｃ14	Ｈ群	76.7	23.3
＊	Ｌ群	92.9	3.3
Ｃ15	Ｈ群	60.0	40.0
＊＊	Ｌ群	83.3	16.7
Ｃ20	Ｈ群	73.3	26.7
＊＊	Ｌ群	96.4	3.6
Ｄ２	Ｈ群	96.3	3.7
＊＊	Ｌ群	66.7	33.3
Ｄ７	Ｈ群	51.7	48.3
＊＊＊	Ｌ群	90.0	10.0
Ｄ８	Ｈ群	78.6	21.4
＊＊	Ｌ群	96.4	3.6